

新技術・新工法(NETIS)について

【抜粋版】

2023年11月
中国地方整備局
企画部 施工企画課
中国技術事務所

1. 公共工事における新技術活用促進の取組み

新技術・新工法活用のねらい

新技術・新工法の活用は、諸課題の解決や民間分野での新技術開発に向けた取り組みの促進を促し、その結果豊かな国民生活の実現等に資することを目的としています。

- ◆公共工事の諸課題解決
(コスト縮減、品質・安全の確保、環境の保全など)
- ◆技術力に優れた企業が伸びる環境づくり
- ◆民間分野での新技術開発に向けた取り組み促進



豊かな国民生活の実現と安全の確保

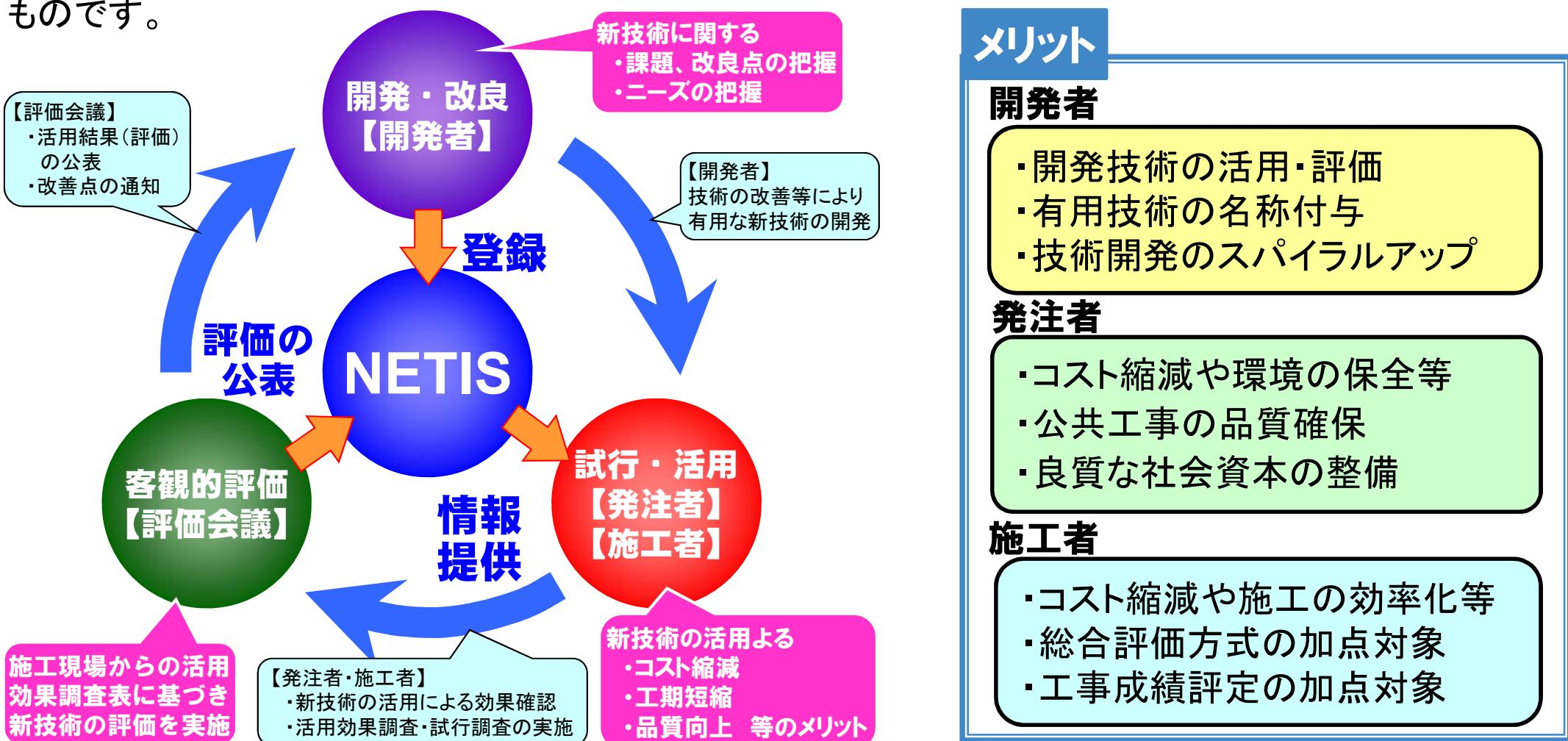
環境の保全と良好な環境の創出

自立的で個性豊かな地域社会の形成

新技術活用システム

新技術活用システムは、民間事業者等により開発された**有用な新技術を公共工事等において積極的に活用していくためのシステム**です。

新技術活用システムとは、新技術情報提供システム(NETIS)を中心とする新技術情報の収集と共有化、直轄工事等での活用、**効果の検証・評価**、更なる改良と技術開発という一連の流れを体系化したものです。



新技術活用促進の取組の流れ

運用開始

平成10年度 「公共事業における新技術活用促進システム」

- (1)新技術を現場で活用することにより、その適用性の評価等を実施
- (2)「新技術情報システム(NETIS)」の省内運用

再編・強化後 本格運用開始

平成18年度 本格運用

- (1)事後評価の実施・徹底及びNETISの再構築
- (2)新技術活用の体系化
(大規模工法を試行・評価し、活用する仕組みも位置づけ)
- (3)新技術の試行・評価から活用までの道筋の強化

運用状況を 踏まえた改正

平成22年度 改正

- (1)事後評価に必要な「活用件数」を10件から5件に緩和。
- (2)掲載期限を、当面の間、5年に延期。
- (3)効果発現に一定期間を要する技術等に「追跡調査」を追加。
- (4)試行現場の照会先を発注者に加え施工者へも拡大。

技術特性を明確化 するための改正

平成26年度 技術特性の明確化

- (1)「テーマ設定型(技術公募)」の新設
- (2)関係研究機関又は第三者機関等に加え、新たに地方公共団体等外部機関の活用による有用な技術の現場導入促進
- (3)適正な従来技術の設定、既NETIS登録技術(類似技術)との比較による登録申請時の技術特性の明確化
- (4)活用効果調査表を、点数だけでなく定性的(コメント重視)評価が可能な調査表へ改訂

新技術の 原則義務化

令和2年度 新技術の原則義務化 運用開始

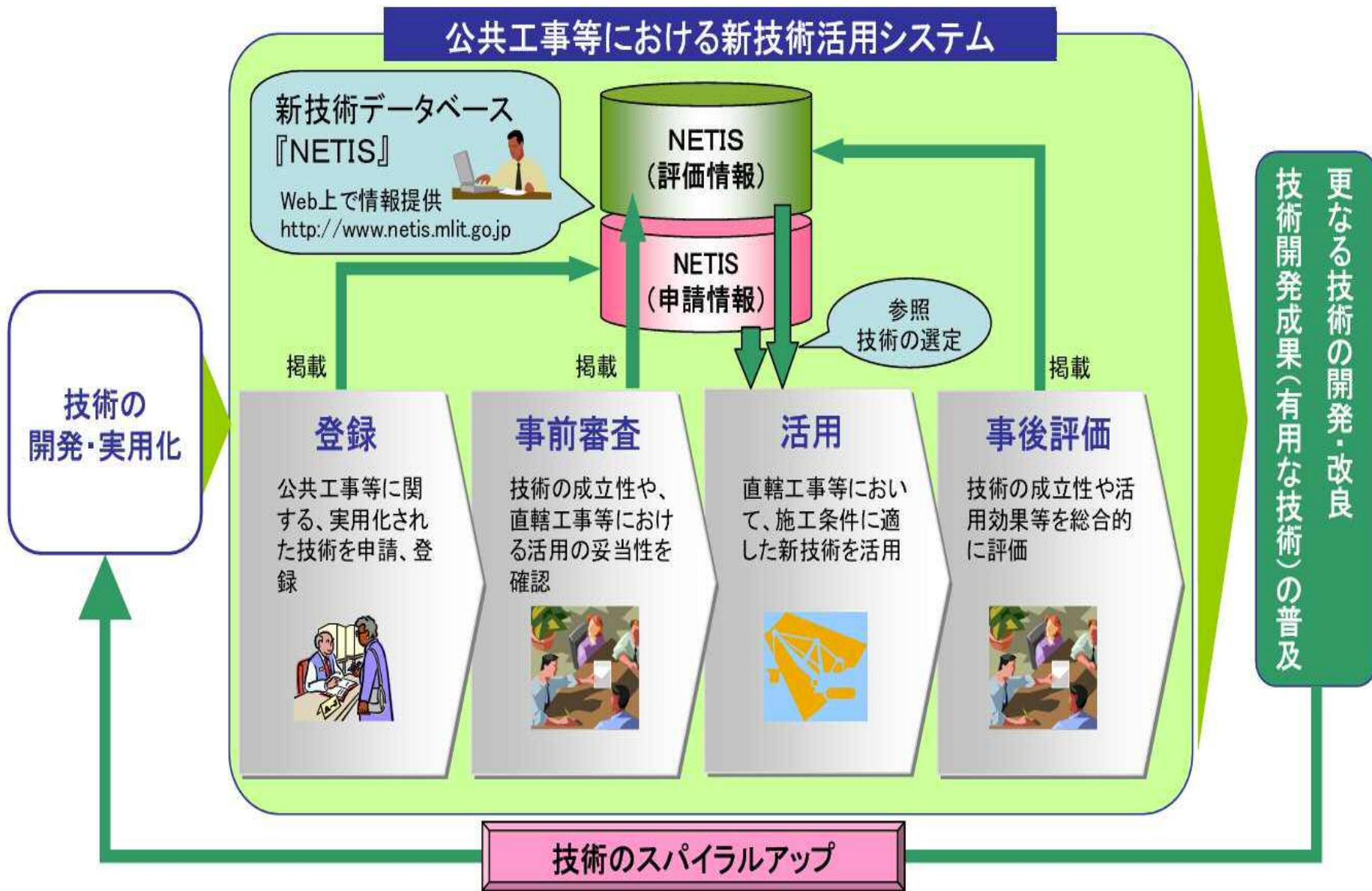
- (1)新技術の活用促進ため直轄工事において新技術活用を原則義務化
- (2)直轄土木工事(港湾空港関係除く)を対象

2. 新技術活用システム(NETIS)の概要

技術開発～標準化までの流れ

技術の一kees(社会一kees・政策一kees)

公共事業での活用【標準化】



新技術活用は、
優れた技術の創出・標準化を目指しています！

新技術の原則義務化について

- R2年度から実施している新技術活用の原則義務化では、BIM/CIM、ICT、NETIS登録技術などのうち、いずれか一つ以上を活用する必要
- R5よりBIM/CIMが原則適用となること、ICT活用工事についても活用工種を順次拡大していることから、新技術活用の原則義務化の対象からBIM/CIM活用工事、ICT活用工事を除き、主としてNETIS登録技術を対象に原則適用することを検討

これまでの新技術原則化対象技術

以下のいずれかの新技術を活用する

- 1) ICT活用工事、BIM/CIM活用工事
- 2) NETIS登録技術
- 3) NETISのテーマ設定型の技術比較表に掲載されている技術
- 4) 新技術導入促進（Ⅱ）型により活用する技術
- 5) 新技術ニーズ・シーズマッチングにより現場実証し、従来技術と同等以上と確認できた技術
- 6) その他、a)、b)、c)を満たす技術
 - a)技術の成立性が技術を開発した民間事業者等により実験等の方法で確認されている技術
 - b)公共工事等に関する技術
 - c)当該技術の適用範囲において従来技術に比べて活用の効果が同等程度以上の技術又は同程度以上と見込まれる技術

R5以降

- BIM/CIMについては、原則適用
- ICT活用工事については、活用工種を順次拡大中

新技術原則化対象技術（案）

- 1) NETIS登録技術
- 2) NETISのテーマ設定型の技術比較表に掲載されている技術
- 3) 新技術導入促進（Ⅱ）型
- 4) 新技術ニーズ・シーズマッチングにより現場実証し、従来技術と同等以上と確認できた技術

新技術の活用方式（義務化についての取組内容）

新技術活用の原則義務化で対象とする新技術は以下のとおり

- 1) 新技術情報提供システム（NETIS）登録技術
- 2) テーマ設定型（技術公募）で作成された技術比較表に掲載されている技術
- 3) 新技術導入促進（Ⅱ）型により活用する技術
- 4) 新技術のニーズ・シーズのマッチングにより現場実証し、従来技術と同等以上と確認できた技術

①発注者指定型

前述の「新技術」について、発注者が設計図書により個別指定して工事発注を行い、新技術を活用するもの（新技術導入促進（Ⅱ）型として発注する場合を含む）

②発注者指定型(選択肢提示型)

発注者が設計図書に対象とするテーマ及び当該テーマに対して効果が期待できる複数の新技術を提示し、契約締結後に受注者が提示された新技術から活用する新技術を選択するもの
また、テーマに対して効果が期待できる新技術は、発注者が提示した新技術以外であっても、監督職員と協議のうえ活用可能

③施工者選定型

受注者から契約前後に使用したい新技術の提案があった場合（受注者が新技術を原則1つ以上選定）
施工者からの提案に基づき、新技術を活用し、活用効果調査を行うタイプ

テーマ設定型（技術公募）について

直轄工事等における現場ニーズ・行政ニーズ等に基づき技術テーマを設定し、民間等から技術の公募を行い、同一条件下の現場実証等を経て、個々の技術の特徴を明確にした資料（技術比較表）を作成し、新技術の活用を促進する取り組みを行っている。

テーマ設定型（技術公募）の仕組み

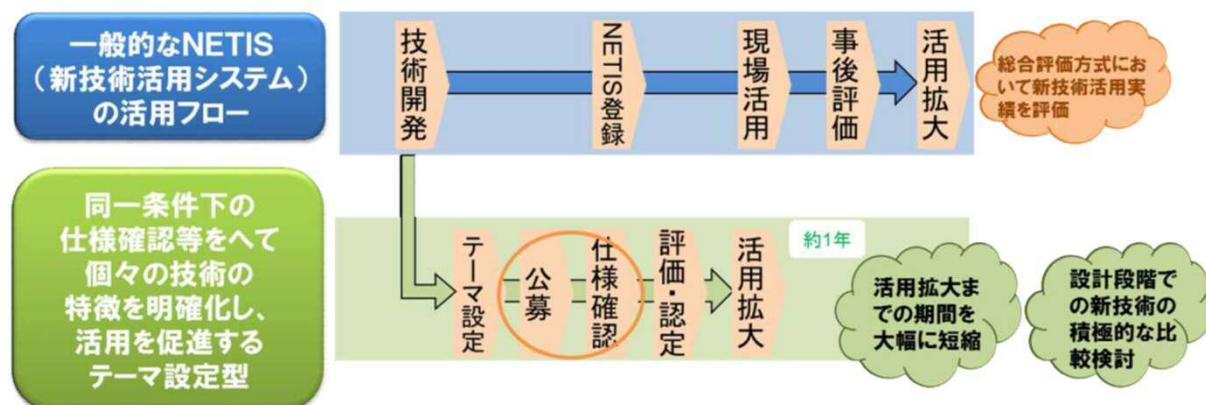


図 テーマ設定型実証の取り組みについて

テーマ設定型（技術公募）一覧表

No.	技術テーマ	掲載技術数
1	上塗り塗装施工したままで可能な溶接部の亀裂・劣化調査技術	3
2	鉄筋コンクリート並びにプレストレストコンクリートのかぶり部における塩化物イオン含有量の非破壊、微破壊調査が可能な技術	4
3	目視困難な水中部にある鋼構造物の腐食や損傷等を非破壊で検査可能な技術	1
4	コンクリート構造物のうき・剥離を検出可能な非破壊検査技術	6
5	土木鋼構造用塗膜剥離剤技術	10
6	遠隔操縦における作業効率向上に資する技術(無線通信技術、映像処理技術)	5
7	コンクリートのひび割れについて遠方より検出が可能な技術	29
8	表面に凹凸がある護岸背面の空洞化を調査する技術	1
9	河川管理施設周辺の空洞化を測定する技術	2
10	新素材繊維接着工(コンクリート剥落対策技術)	25
11	路面性状を簡単に把握可能な技術	16
12	PC橋に用いる被覆PC鋼線技術	4
13	道路附属物の支柱路面境界部以下の変状を非破壊で検出できる技術	6
14	自動識別が可能なカメラ撮影・解析技術(夏冬タイヤ判別等)	1
15	道路附属物の基礎を簡単に設置する工法	7
16	UAV等を用いた砂防堰堤の自動巡回・画像取得技術①	4
17	建設機械の騒音低減に資する技術	5
18	道路トンネル点検記録の作成支援ロボット技術	5
19	施工性の良好なコンクリート含浸材技術(塩害対策)	11
20	施工性の良好なコンクリート含浸材技術(中性化対策)	13
21	河川堤防において、除草後の歩道点検に変えて不具合箇所(モグラ穴等)を計測できる技術	1
22	ライティング技術等の除雪作業の効率化に寄与する技術	2
23	AR(拡張現実)技術等の除雪作業の効率化に寄与する技術	1
24	先端技術等による自然エネルギー、ローカルエネルギーを活用した融雪技術	4
25	簡易に鋼材、鉄筋等の腐食状況を把握できる技術	3
26	耐久性に優れる超高強度繊維補強コンクリート技術	5
27	建設機械の安全装置に関する技術(ローラ)	5
28	建設発生土(河川浚渫・掘削土等)を活用した盛土材料(通常堤防・高規格堤防)としての改良技術、無害化技術(不溶化)	23
29	軟弱地盤上の堤防整備における周辺地盤に影響を与えない圧密・排水促進の技術(地盤改良を含む)	11
30	水中点検ロボットを使用したコンクリートダム堤体の水中点検技術	4
31	道路橋の塩害モニタリング技術	4
32	コンクリート舗装工事の効率化に貢献する技術	3
33	道路上における雑草抑制技術	35
34	道路上に設置する透光性遮音板の技術	8
35	トンネル覆工の防水技術	4
36	道路橋点検記録作成支援ロボット技術	12
37	道路トンネル非常用施設「自動通報施設」	2
38	道路橋の耐震性向上に資する制震ダンパー技術	13
39	UAV等を用いた砂防堰堤の自動巡回・画像取得技術②	3
40	建設機械の安全装置に関する技術(ドラグショベル)	12
41	路面下空洞調査技術	11
42	露出した鉄筋等に対する除鏽・防錆技術	6
43	堤防被災時の緊急復旧堤防の効率化、省力化を目的とした法面補強技術	25
44	橋梁伸縮装置止水部の補修に関する技術	5
45	無電柱化における管路部等の低コスト化に資する技術	6

発注者指定型（選択肢提示型）について

- 発注者指定型による活用促進が進まないのは、発注者が設計段階において個別的新技術を選定できないことがおおきな要因
- そのため、発注段階ではテーマに基づく複数の新技術を選択肢として提示し、契約後に受注者が選択肢から個別技術を選定する発注者指定型（選択肢提示型）を設定

選択肢提示型

- 対象となる構造物や工種、新技術活用により得られる効果（テーマ）を設定
- テーマに対して選択可能な有用な技術をリスト化
- 当初発注段階で特記仕様書に明示
- 対象とするテーマ及び複数の新技術については、本省より通知

【特記仕様書の記載例】

第〇条 新技術活用の促進「発注者指定型（選択肢提示型）」

1. 本工事は、発注者が提示するテーマに即した複数の新技術のうち、受注者が1技術を選択したうえで活用を図る新技術活用工事である。

受注者は、契約締結後、下表に示すテーマに即した新技術のうち1技術を選択し、活用する技術について監督職員と協議の上、施工計画書を作成し監督職員に提出するものとする。なお、活用する新技術がNETIS登録技術の場合は新技術活用計画書も提出するものとし、新技術活用計画書は、「新技術情報提供システム(NETIS)」より作成し、監督職員に提出するものとする。また、下表に示す技術以外の新技術の活用を制限するものではないことから、同等以上の性能・品質や効果を有する新技術を活用しても差し支えない。

テーマ：「〇〇工（レベル3）の〇〇工（レベル4）における
〇〇向上に資する技術」

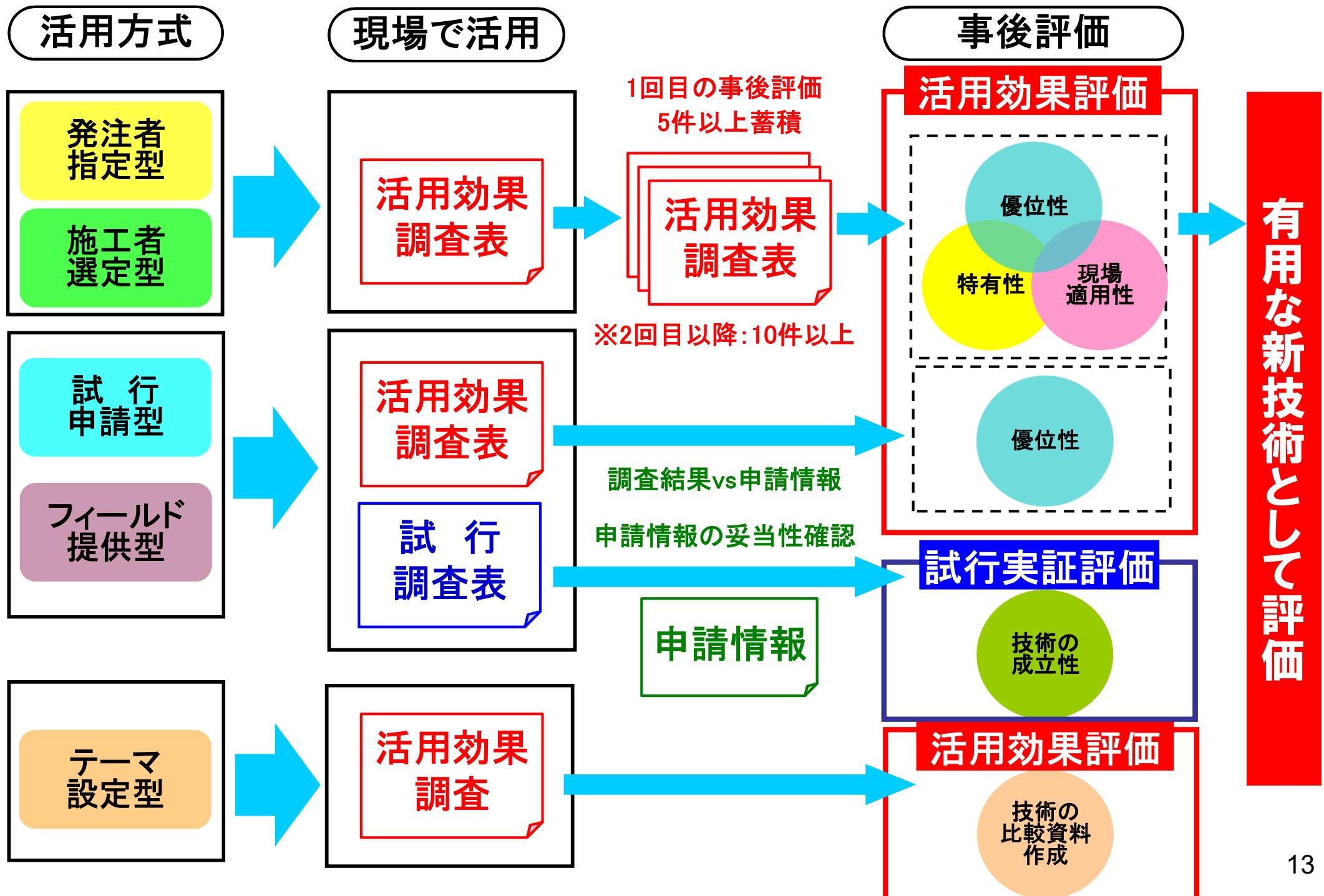
【新技術リストのイメージ】

技術名	NETIS番号	備考
〇〇工法	KK-oooo-VE	※設計変更対象外
〇〇技術	KT-oooo-VE	※設計変更対象外
〇〇工法	HR-oooo-VE	

施工者選定型

- 施工者は新技術を原則 1つ以上選定して活用するものとし、選定した新技術の名称及び内容等を施工計画書に記載し、監督職員に提出するものとする。
- 施工者選定型で活用する新技術については、「i-Constructionにおける「ICTの全面的な活用」について」（R2.3.31）に基づく新技術を除き、設計変更の対象とはしない。

事後評価の流れ



新技術活用システム事後評価（継続調査の有無）

◆事後評価(継続調査の判定)

※再評価の対象技術を選定(新技術活用評価会議)

活用

各工事で作成

活用効果
調査表

集計
↓

1回目:5件以上
2回目以降:
10件以上

活用効果
調査表

事後評価

優位性等
総合的な
評価確定

耐久性等の
確認追跡調
査が必要

調査内容
従来技術を変
更し事後調査

評価結果が
ばらついてい
る

以後、
評価不要
技術

評価継続
技術

新技術登録番号の末尾がーVEと
なった技術



以降、
活用実施報告書、
活用効果調査表不要
活用計画書の提出は必要

※継続調査等の対象としない技術

新技術登録番号の末尾がーVRと
なった技術
* 活用効果調査表が技術毎に設定
される



必ず
→

※継続調査等の対象となった技術

事後評価

事後評価の結果（NETIS掲載情報）

現場で活用

事後評価

NETISに公開
【参考】
活用効果評価結果

活用効果調査表

活用効果調査表（施工者用）

（全ての調査項目について回答を多めにして下さい。
例：記入者が技術に難がある場合は「当該技術に難がある」にチェックして下さい。
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。

【ポイント】
施工技術が、従来技術と比較して、どの程度優れているか、どの程
度改善が必要か等を評価する項目です。評価尺度は、1～5点で評定します。
（1点：「大変に悪い」、（2点：「劣る」、（3点：「同等」、（4点：「優れる」、（5点：「大変に優れる」）
記入して下さい。
記入内容は、効率調査の理由や評価の根拠でチェックした内容と必ず整合を図って下さい。

活用効果調査表（発注者用）

（全ての調査項目について調査を行って下さい。
例：記入者が評価に難がある場合は「当該技術に難がある」にチェックして下さい。
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。

【ポイント】
施工技術が、従来技術に比べて「優れる」か、「同等」か、「劣る」かを判断してから、どの程度優れているか、どの程
度改善が必要か等を評価する項目です。評価尺度は、1～5点で評定します。
（1点：「大変に悪い」、（2点：「劣る」、（3点：「同等」、（4点：「優れる」、（5点：「大変に優れる」）
記入して下さい。
記入内容は、効率調査の理由や評価の根拠でチェックした内容と必ず整合を図って下さい。

未評価技術【登録番号】

ZZ-999999-A

再評価技術【登録番号】

ZZ-999999-V・(VR)

評価結果

- プロセスがおりに運営しなかったため
- 施工性が劣ったため
- 資料が複数化したため
- 施工管理にかかる負担の増加が見込まれたため

評価会議



事後評価後【登録番号】

【H25年度まで】

ZZ-999999-V

【H26年度以降】

ZZ-999999-VE

ZZ-999999-VR

活用効果評価結果（実）

平成26年度		省力化、安全性の向上、作業環境の向上		有効な技術の位置づけ	
登録番号	開発目標	新技術登録番号		区分	品目
		分類	新技術名		
HR-040006-A	道路舗装修繕工 - 路面修繕工 - その他	新技術名	ファインテープ (舗装の施工経目等の防水テープ)	新技術の概要及び特徴	シールコート
		所見	【経済性】 本技術の経済性については、従来技術のコストに対して、ほぼ同等である。 【工程】 材料を加熱溶融する必要がなく、貼付け作業のみのため、工程の短縮が図られている。 【品質】 低燃度での亜鉛や鉄錆が生じにくく、蒸温でもしつこくないことで、舗装面に密着し雨水の浸透を防止できるため、品質の向上が図られている。	活用効果評価	本項目は、別途評価会議で審議する。
		留意事項	【安全性】 火災や爆発をしないため、防火、火災、火傷が発生しない。 【環境】 注入材の溶融工程がなく、施工が容易である。 【理屈】 シール材溶融による発煙がなく、材料がリサイクル製品である。		項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較
		対象工事	【適用範囲】 1. 路面工事 2. 施工用機械 3. 施工用工具 4. 施工用資材 5. 施工方法 6. 施工環境 7. 施工品質 8. 施工安全 9. 施工効率 10. 施工費用 11. 施工時間 12. 施工品質 13. 施工効率 14. 施工費用 15. 施工時間 16. 施工品質 17. 施工効率 18. 施工費用 19. 施工時間 20. 施工品質 21. 施工効率 22. 施工費用 23. 施工時間 24. 施工品質 25. 施工効率 26. 施工費用 27. 施工時間 28. 施工品質 29. 施工効率 30. 施工費用 31. 施工時間 32. 施工品質 33. 施工効率 34. 施工費用 35. 施工時間 36. 施工品質 37. 施工効率 38. 施工費用 39. 施工時間 40. 施工品質 41. 施工効率 42. 施工費用 43. 施工時間 44. 施工品質 45. 施工効率 46. 施工費用 47. 施工時間 48. 施工品質 49. 施工効率 50. 施工費用 51. 施工時間 52. 施工品質 53. 施工効率 54. 施工費用 55. 施工時間 56. 施工品質 57. 施工効率 58. 施工費用 59. 施工時間 60. 施工品質 61. 施工効率 62. 施工費用 63. 施工時間 64. 施工品質 65. 施工効率 66. 施工費用 67. 施工時間 68. 施工品質 69. 施工効率 70. 施工費用 71. 施工時間 72. 施工品質 73. 施工効率 74. 施工費用 75. 施工時間 76. 施工品質 77. 施工効率 78. 施工費用 79. 施工時間 80. 施工品質 81. 施工効率 82. 施工費用 83. 施工時間 84. 施工品質 85. 施工効率 86. 施工費用 87. 施工時間 88. 施工品質 89. 施工効率 90. 施工費用 91. 施工時間 92. 施工品質 93. 施工効率 94. 施工費用 95. 施工時間 96. 施工品質 97. 施工効率 98. 施工費用 99. 施工時間 100. 施工品質 101. 施工効率 102. 施工費用 103. 施工時間 104. 施工品質 105. 施工効率 106. 施工費用 107. 施工時間 108. 施工品質 109. 施工効率 110. 施工費用 111. 施工時間 112. 施工品質 113. 施工効率 114. 施工費用 115. 施工時間 116. 施工品質 117. 施工効率 118. 施工費用 119. 施工時間 120. 施工品質 121. 施工効率 122. 施工費用 123. 施工時間 124. 施工品質 125. 施工効率 126. 施工費用 127. 施工時間 128. 施工品質 129. 施工効率 130. 施工費用 131. 施工時間 132. 施工品質 133. 施工効率 134. 施工費用 135. 施工時間 136. 施工品質 137. 施工効率 138. 施工費用 139. 施工時間 140. 施工品質 141. 施工効率 142. 施工費用 143. 施工時間 144. 施工品質 145. 施工効率 146. 施工費用 147. 施工時間 148. 施工品質 149. 施工効率 150. 施工費用 151. 施工時間 152. 施工品質 153. 施工効率 154. 施工費用 155. 施工時間 156. 施工品質 157. 施工効率 158. 施工費用 159. 施工時間 160. 施工品質 161. 施工効率 162. 施工費用 163. 施工時間 164. 施工品質 165. 施工効率 166. 施工費用 167. 施工時間 168. 施工品質 169. 施工効率 170. 施工費用 171. 施工時間 172. 施工品質 173. 施工効率 174. 施工費用 175. 施工時間 176. 施工品質 177. 施工効率 178. 施工費用 179. 施工時間 180. 施工品質 181. 施工効率 182. 施工費用 183. 施工時間 184. 施工品質 185. 施工効率 186. 施工費用 187. 施工時間 188. 施工品質 189. 施工効率 190. 施工費用 191. 施工時間 192. 施工品質 193. 施工効率 194. 施工費用 195. 施工時間 196. 施工品質 197. 施工効率 198. 施工費用 199. 施工時間 200. 施工品質 201. 施工効率 202. 施工費用 203. 施工時間 204. 施工品質 205. 施工効率 206. 施工費用 207. 施工時間 208. 施工品質 209. 施工効率 210. 施工費用 211. 施工時間 212. 施工品質 213. 施工効率 214. 施工費用 215. 施工時間 216. 施工品質 217. 施工効率 218. 施工費用 219. 施工時間 220. 施工品質 221. 施工効率 222. 施工費用 223. 施工時間 224. 施工品質 225. 施工効率 226. 施工費用 227. 施工時間 228. 施工品質 229. 施工効率 230. 施工費用 231. 施工時間 232. 施工品質 233. 施工効率 234. 施工費用 235. 施工時間 236. 施工品質 237. 施工効率 238. 施工費用 239. 施工時間 240. 施工品質 241. 施工効率 242. 施工費用 243. 施工時間 244. 施工品質 245. 施工効率 246. 施工費用 247. 施工時間 248. 施工品質 249. 施工効率 250. 施工費用 251. 施工時間 252. 施工品質 253. 施工効率 254. 施工費用 255. 施工時間 256. 施工品質 257. 施工効率 258. 施工費用 259. 施工時間 260. 施工品質 261. 施工効率 262. 施工費用 263. 施工時間 264. 施工品質 265. 施工効率 266. 施工費用 267. 施工時間 268. 施工品質 269. 施工効率 270. 施工費用 271. 施工時間 272. 施工品質 273. 施工効率 274. 施工費用 275. 施工時間 276. 施工品質 277. 施工効率 278. 施工費用 279. 施工時間 280. 施工品質 281. 施工効率 282. 施工費用 283. 施工時間 284. 施工品質 285. 施工効率 286. 施工費用 287. 施工時間 288. 施工品質 289. 施工効率 290. 施工費用 291. 施工時間 292. 施工品質 293. 施工効率 294. 施工費用 295. 施工時間 296. 施工品質 297. 施工効率 298. 施工費用 299. 施工時間 300. 施工品質 301. 施工効率 302. 施工費用 303. 施工時間 304. 施工品質 305. 施工効率 306. 施工費用 307. 施工時間 308. 施工品質 309. 施工効率 310. 施工費用 311. 施工時間 312. 施工品質 313. 施工効率 314. 施工費用 315. 施工時間 316. 施工品質 317. 施工効率 318. 施工費用 319. 施工時間 320. 施工品質 321. 施工効率 322. 施工費用 323. 施工時間 324. 施工品質 325. 施工効率 326. 施工費用 327. 施工時間 328. 施工品質 329. 施工効率 330. 施工費用 331. 施工時間 332. 施工品質 333. 施工効率 334. 施工費用 335. 施工時間 336. 施工品質 337. 施工効率 338. 施工費用 339. 施工時間 340. 施工品質 341. 施工効率 342. 施工費用 343. 施工時間 344. 施工品質 345. 施工効率 346. 施工費用 347. 施工時間 348. 施工品質 349. 施工効率 350. 施工費用 351. 施工時間 352. 施工品質 353. 施工効率 354. 施工費用 355. 施工時間 356. 施工品質 357. 施工効率 358. 施工費用 359. 施工時間 360. 施工品質 361. 施工効率 362. 施工費用 363. 施工時間 364. 施工品質 365. 施工効率 366. 施工費用 367. 施工時間 368. 施工品質 369. 施工効率 370. 施工費用 371. 施工時間 372. 施工品質 373. 施工効率 374. 施工費用 375. 施工時間 376. 施工品質 377. 施工効率 378. 施工費用 379. 施工時間 380. 施工品質 381. 施工効率 382. 施工費用 383. 施工時間 384. 施工品質 385. 施工効率 386. 施工費用 387. 施工時間 388. 施工品質 389. 施工効率 390. 施工費用 391. 施工時間 392. 施工品質 393. 施工効率 394. 施工費用 395. 施工時間 396. 施工品質 397. 施工効率 398. 施工費用 399. 施工時間 400. 施工品質 401. 施工効率 402. 施工費用 403. 施工時間 404. 施工品質 405. 施工効率 406. 施工費用 407. 施工時間 408. 施工品質 409. 施工効率 410. 施工費用 411. 施工時間 412. 施工品質 413. 施工効率 414. 施工費用 415. 施工時間 416. 施工品質 417. 施工効率 418. 施工費用 419. 施工時間 420. 施工品質 421. 施工効率 422. 施工費用 423. 施工時間 424. 施工品質 425. 施工効率 426. 施工費用 427. 施工時間 428. 施工品質 429. 施工効率 430. 施工費用 431. 施工時間 432. 施工品質 433. 施工効率 434. 施工費用 435. 施工時間 436. 施工品質 437. 施工効率 438. 施工費用 439. 施工時間 440. 施工品質 441. 施工効率 442. 施工費用 443. 施工時間 444. 施工品質 445. 施工効率 446. 施工費用 447. 施工時間 448. 施工品質 449. 施工効率 450. 施工費用 451. 施工時間 452. 施工品質 453. 施工効率 454. 施工費用 455. 施工時間 456. 施工品質 457. 施工効率 458. 施工費用 459. 施工時間 460. 施工品質 461. 施工効率 462. 施工費用 463. 施工時間 464. 施工品質 465. 施工効率 466. 施工費用 467. 施工時間 468. 施工品質 469. 施工効率 470. 施工費用 471. 施工時間 472. 施工品質 473. 施工効率 474. 施工費用 475. 施工時間 476. 施工品質 477. 施工効率 478. 施工費用 479. 施工時間 480. 施工品質 481. 施工効率 482. 施工費用 483. 施工時間 484. 施工品質 485. 施工効率 486. 施工費用 487. 施工時間 488. 施工品質 489. 施工効率 490. 施工費用 491. 施工時間 492. 施工品質 493. 施工効率 494. 施工費用 495. 施工時間 496. 施工品質 497. 施工効率 498. 施工費用 499. 施工時間 500. 施工品質 501. 施工効率 502. 施工費用 503. 施工時間 504. 施工品質 505. 施工効率 506. 施工費用 507. 施工時間 508. 施工品質 509. 施工効率 510. 施工費用 511. 施工時間 512. 施工品質 513. 施工効率 514. 施工費用 515. 施工時間 516. 施工品質 517. 施工効率 518. 施工費用 519. 施工時間 520. 施工品質 521. 施工効率 522. 施工費用 523. 施工時間 524. 施工品質 525. 施工効率 526. 施工費用 527. 施工時間 528. 施工品質 529. 施工効率 530. 施工費用 531. 施工時間 532. 施工品質 533. 施工効率 534. 施工費用 535. 施工時間 536. 施工品質 537. 施工効率 538. 施工費用 539. 施工時間 540. 施工品質 541. 施工効率 542. 施工費用 543. 施工時間 544. 施工品質 545. 施工効率 546. 施工費用 547. 施工時間 548. 施工品質 549. 施工効率 550. 施工費用 551. 施工時間 552. 施工品質 553. 施工効率 554. 施工費用 555. 施工時間 556. 施工品質 557. 施工効率 558. 施工費用 559. 施工時間 560. 施工品質 561. 施工効率 562. 施工費用 563. 施工時間 564. 施工品質 565. 施工効率 566. 施工費用 567. 施工時間 568. 施工品質 569. 施工効率 570. 施工費用 571. 施工時間 572. 施工品質 573. 施工効率 574. 施工費用 575. 施工時間 576. 施工品質 577. 施工効率 578. 施工費用 579. 施工時間 580. 施工品質 581. 施工効率 582. 施工費用 583. 施工時間 584. 施工品質 585. 施工効率 586. 施工費用 587. 施工時間 588. 施工品質 589. 施工効率 590. 施工費用 591. 施工時間 592. 施工品質 593. 施工効率 594. 施工費用 595. 施工時間 596. 施工品質 597. 施工効率 598. 施工費用 599. 施工時間 600. 施工品質 601. 施工効率 602. 施工費用 603. 施工時間 604. 施工品質 605. 施工効率 606. 施工費用 607. 施工時間 608. 施工品質 609. 施工効率 610. 施工費用 611. 施工時間 612. 施工品質 613. 施工効率 614. 施工費用 615. 施工時間 616. 施工品質 617. 施工効率 618. 施工費用 619. 施工時間 620. 施工品質 621. 施工効率 622. 施工費用 623. 施工時間 624. 施工品質 625. 施工効率 626. 施工費用 627. 施工時間 628. 施工品質 629. 施工効率 630. 施工費用 631. 施工時間 632. 施工品質 633. 施工効率 634. 施工費用 635. 施工時間 636. 施工品質 637. 施工効率 638. 施工費用 639. 施工時間 640. 施工品質 641. 施工効率 642. 施工費用 643. 施工時間 644. 施工品質 645. 施工効率 646. 施工費用 647. 施工時間 648. 施工品質 649. 施工効率 650. 施工費用 651. 施工時間 652. 施工品質 653. 施工効率 654. 施工費用 655. 施工時間 656. 施工品質 657. 施工効率 658. 施工費用 659. 施工時間 660. 施工品質 661. 施工効率 662. 施工費用 663. 施工時間 664. 施工品質 665. 施工効率 666. 施工費用 667. 施工時間 668. 施工品質 669. 施工効率 670. 施工費用 671. 施工時間 672. 施工品質 673. 施工効率 674. 施工費用 675. 施工時間 676. 施工品質 677. 施工効率 678. 施工費用 679. 施工時間 680. 施工品質 681. 施工効率 682. 施工費用 683. 施工時間 684. 施工品質 685. 施工効率 686. 施工費用 687. 施工時間 688. 施工品質 689. 施工効率 690. 施工費用 691. 施工時間 692. 施工品質 693. 施工効率 694. 施工費用 695. 施工時間 696. 施工品質 697. 施工効率 698. 施工費用 699. 施工時間 700. 施工品質 701. 施工効率 702. 施工費用 703. 施工時間 704. 施工品質 705. 施工効率 706. 施工費用 707. 施工時間 708. 施工品質 709. 施工効率 710. 施工費用 711. 施工時間 712. 施工品質 713. 施工効率 714. 施工費用 715. 施工時間 716. 施工品質 717. 施工効率 718. 施工費用 719. 施工時間 720. 施工品質 721. 施工効率 722. 施工費用 723. 施工時間 724. 施工品質 725. 施工効率 726. 施工費用 727. 施工時間 728. 施工品質 729. 施工効率 730. 施工費用 731. 施工時間 732. 施工品質 733. 施工効率 734. 施工費用 735. 施工時間 736. 施工品質 737. 施工効率 738. 施工費用 739. 施工時間 740. 施工品質 741. 施工効率 742. 施工費用 743. 施工時間 744. 施工品質 745. 施工効率 746. 施工費用 747. 施工時間 748. 施工品質 749. 施工効率 750. 施工費用 751. 施工時間 752. 施工品質 753. 施工効率 754. 施工費用 755. 施工時間 756. 施工品質 757. 施工効率 758. 施工費用 759. 施工時間 760. 施工品質 761. 施工効率 762. 施工費用 763. 施工時間 764. 施工品質 765. 施工効率 766. 施工費用 767. 施工時間 768. 施工品質 769. 施工効率 770. 施工費用 771. 施工時間 772. 施工品質 773. 施工効率 774. 施工費用 775. 施工時間 776. 施工品質 777. 施工効率 778. 施工費用 779. 施工時間 780. 施工品質 781. 施工効率 782. 施工費用 783. 施工時間 784. 施工品質 785. 施工効率 786. 施工費用 787. 施工時間 788. 施工品質 789. 施工効率 790. 施工費用 791. 施工時間 792. 施工品質 793. 施工効率 794. 施工費用 795. 施工時間 796. 施工品質 797. 施工効率 798. 施工費用 799. 施工時間 800. 施工品質 801. 施工効率 802. 施工費用 803. 施工時間 804. 施工品質 805. 施工効率 806. 施工費用 807. 施工時間 808. 施工品質 809. 施工効率 810. 施工費用 811. 施工時間 812. 施工品質 813. 施工効率 814. 施工費用 815. 施工時間 816. 施工品質 817. 施工効率 818. 施工費用 819. 施工時間 820. 施工品質 821. 施工効率 822. 施工費用 823. 施工時間 824. 施工品質 825. 施工効率 826. 施工費用 827. 施工時間 828. 施工品質 829. 施工効率 830. 施工費用 831. 施工時間 832. 施工		

令和5年度より、NETIS掲載期間は以下のとおり変更されました。

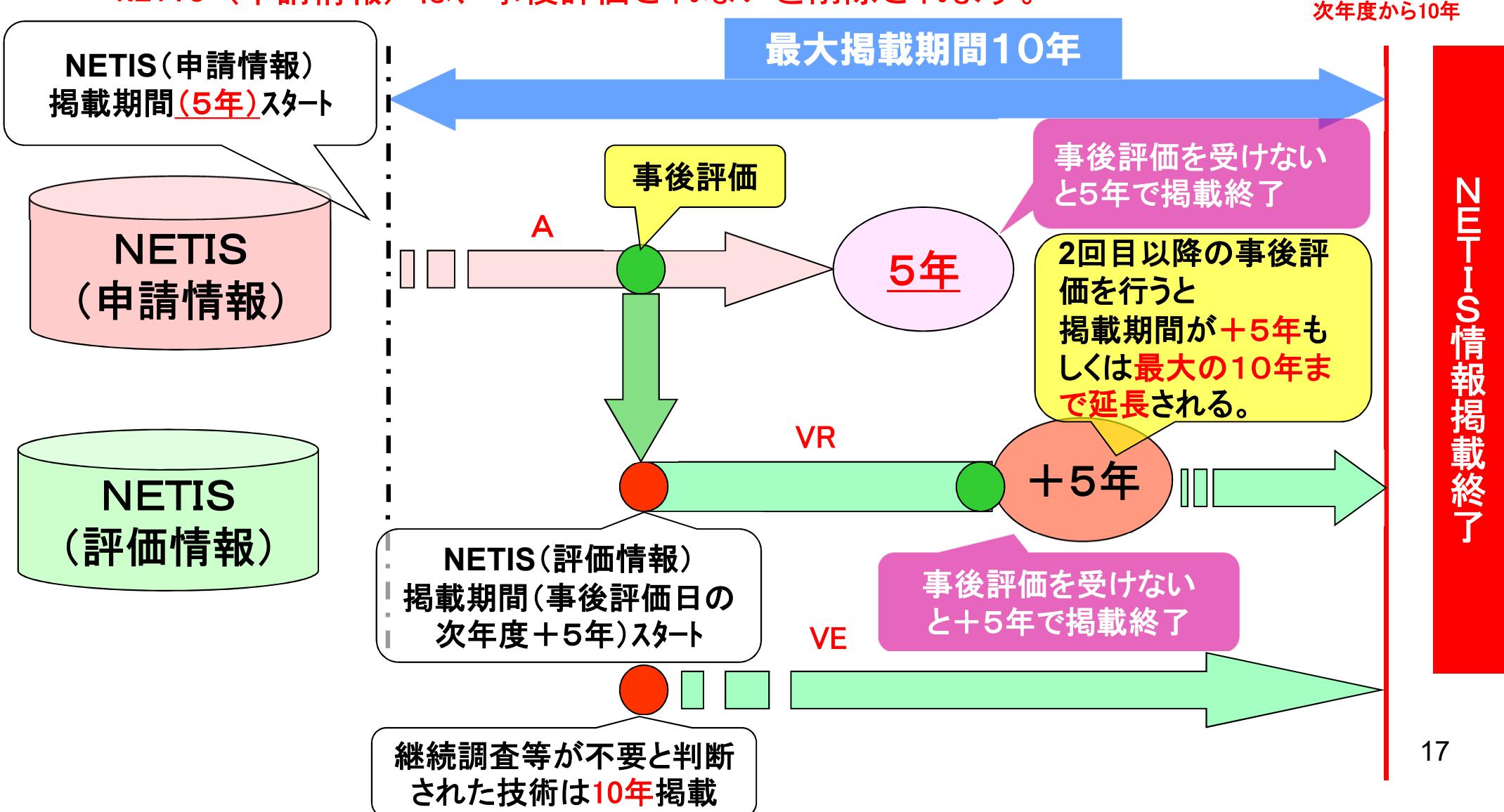
- ◆ NETIS(申請情報)の掲載期間は原則10年(従来:5年)
- ◆ NETIS(評価情報)の掲載期間は、
評価がVRの場合、技術登録の翌年度から原則10年
(従来:評価時点から原則5年)
評価がVEの場合は、技術登録の翌年度から最大10年
(従来と変わらず)
- ◆ **推奨・準推奨技術に選定された技術の掲載期間は、技術登録の翌年度から15年**

- ※ VR評価 技術の評価において継続調査等が必要とされた技術
VE評価 技術の評価において継続調査等が不要とされた技術
推奨技術 公共工事等に関する技術の水準を一層高める画期的な新技術
準推奨技術 推奨技術と位置づけるためには更なる発展を期待する部分がある新技術

- ◆ 登録技術の改善が地方整備局等の評価会議で認められた場合、起算日はリセットされる。(NETIS登録番号を改めて付与)

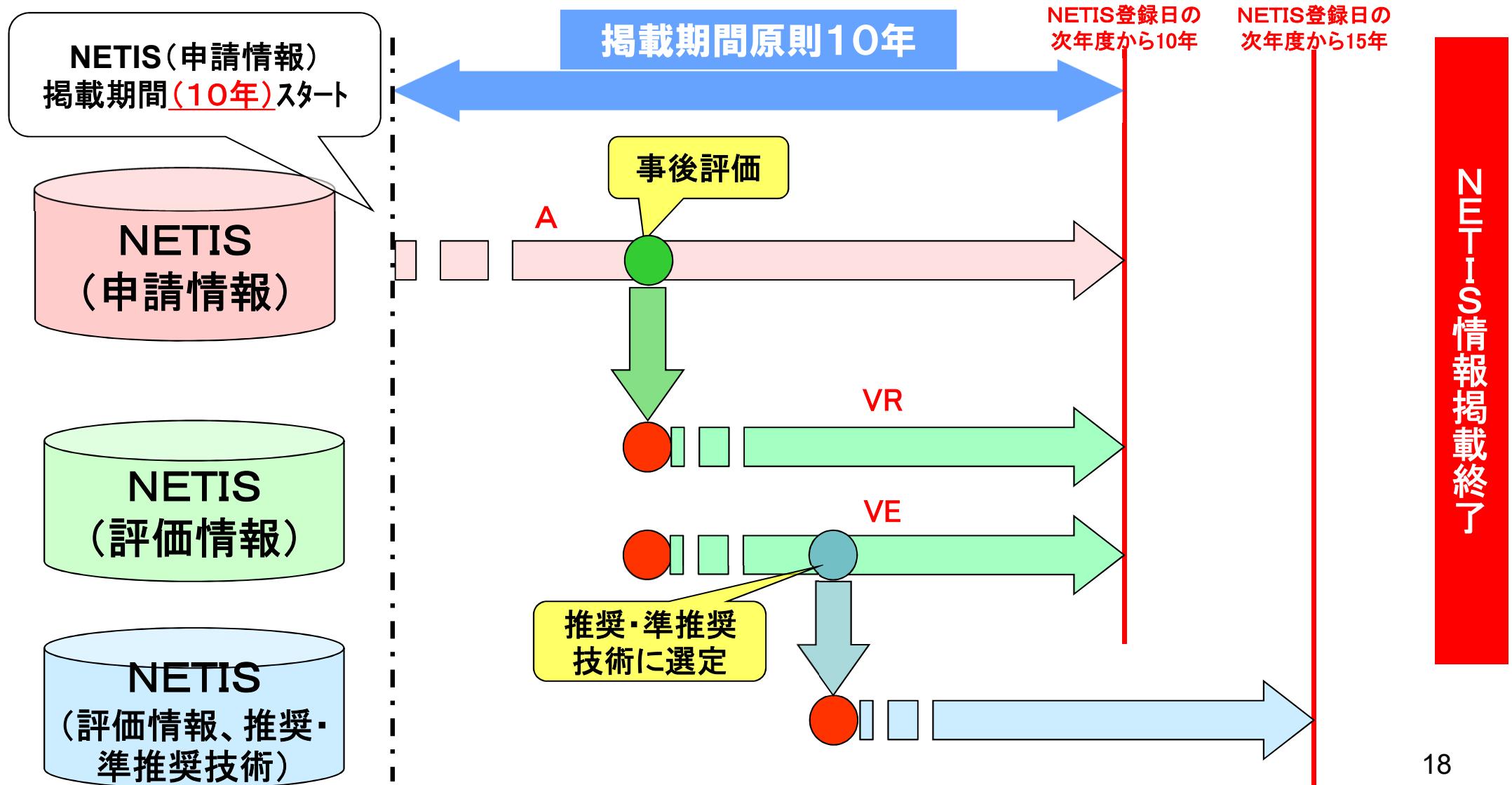
NETIS掲載期間（令和4年度まで）

- 新技術新工法の掲載期間は最大で10年間掲載できます。
- 申請・登録年度の翌年度から5年間の掲載が始まります。この5年間の中で、5件以上の活用効果調査表により事後評価を行うと、更に5年間、掲載が延長され、最大10年間の掲載です。
- NETIS（申請情報）は、事後評価されないと削除されます。



NETIS掲載期間（令和5年度から）

- 新技術新工法の掲載期間は原則10年間です（申請情報、評価情報を問わず）。
- 評価情報のうち、推奨・準推奨技術に選定された技術の掲載期間が15年間です。



有用な新技術の位置付け

新技术活用システム検討会議が選定する有用な新技術

※件数:令和5年5月時点

推奨技術 3件 + 今回2件

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された画期的な新技術

準推奨技術 11件 + 今回2件

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された画期的な新技術で、推奨技術と位置づけるためには更なる発展を期待する部分がある新技術

評価促進技術 2件 + 今回0件

他機関等の実績に基づき、公共工事等に関する技術水準等を高めることが見込める技術(平成26年度より選定)

●推薦主体と推薦技術の要件

推薦

推薦

評価会議 (地整等)

「有用な新技術」で、かつ「-VE」の技術

第三者機関 (技術審査証明 実施機関)

各機関の審査証明取得技術で、平成26年度以降に事後評価された技術(-AI以外)

研究機関 (国総研、土研等) 学会等

- 各機関で事前審査等を行った技術(-AI以外)
- 各機関で開発、NETISで活用・評価された技術(-AI以外)

地方公共団体

各団体で活用・評価された技術(-Aも含む)

新技術活用評価会議が選定

活用促進技術 218件

- 総合的に活用の効果が優れている技術
- 特定の性能または機能が特に優れている技術
- 特定の地域のみで普及しており、全国的に普及することが有益と判断される技術 等

評価情報 798件

申請情報 2,873件

活用・評価

※複数の「有用な新技術」に選定されている技術があります

推奨技術の選考要件

- 従来に比べ飛躍的な改善効果を発揮
- 先駆的な取組みであり、幅広い活用が期待される
- 技術内容が画期的で、将来飛躍的な効果の改善が期待できる
- 国際的に先端を行く技術、先進諸国への技術展開の期待
- 応用性等が高く、国際的な課題の解決に資する
- 一般化・標準化に向けて活用を促すべき技術

有用な新技術のインセンティブ

- 工事発注時の総合評価方式での加点(当該工事への効果が見込まれるもの)
- 工事成績評価での加点(発注者指定型を除く)
- 設計業務の比較検討において対象技術となる(共通仕様書に規定) 等

3. 新技術活用効果調査表について

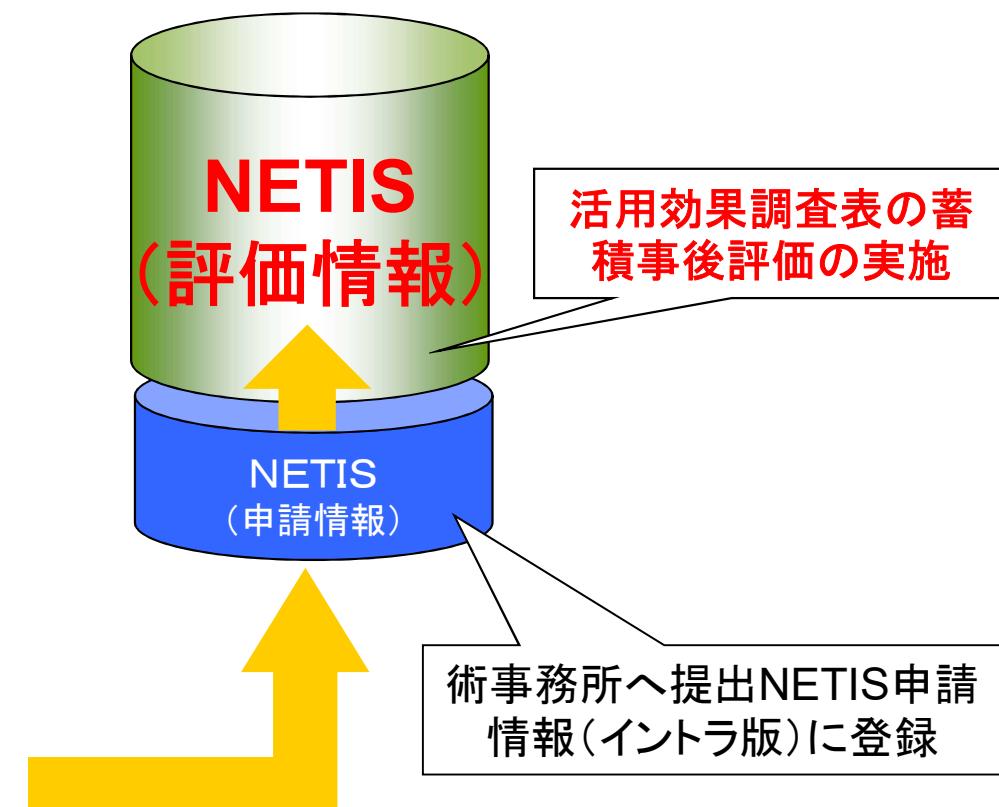
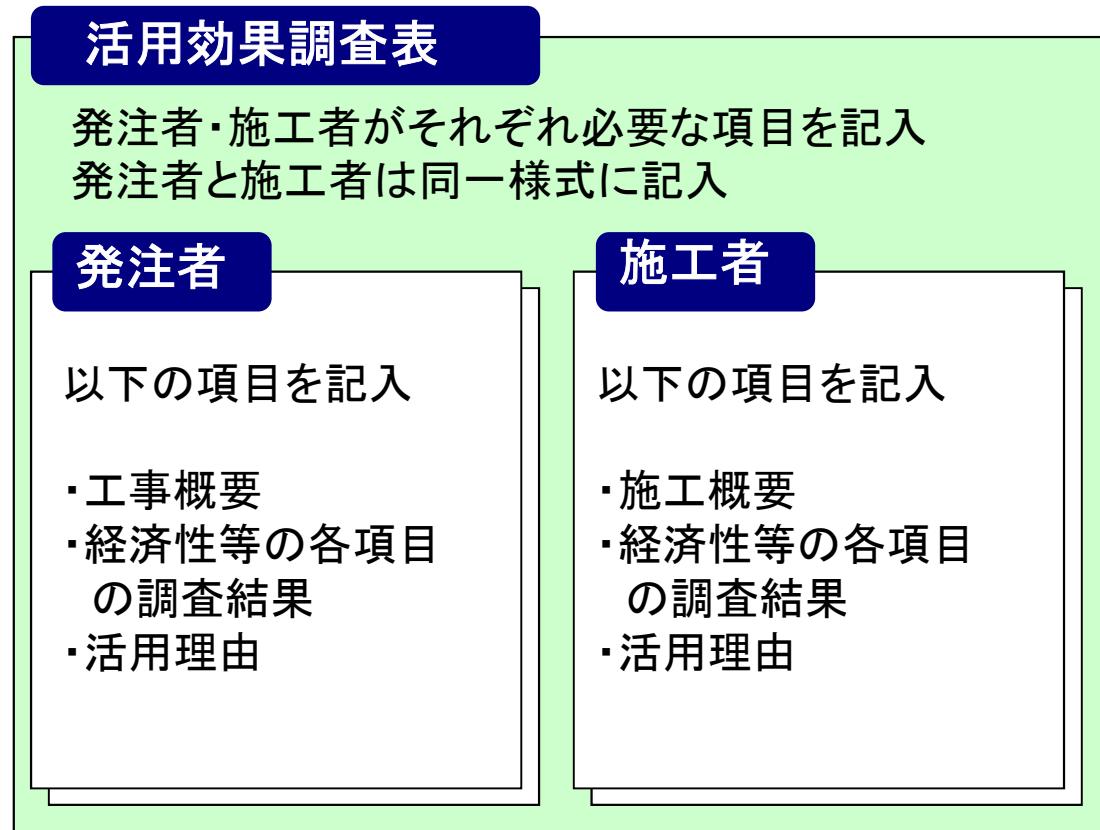
活用効果調査表の作成

●活用効果調査表とは

活用効果調査表は、事後評価を実施するために必要な資料。

直轄工事で試行及び活用した新技術を対象として、経済性、工程、品質・出来形、安全性、施工性、環境などの6項目について、新技術と従来技術を比較した結果を記入。

●活用効果調査表作成の流れ



4. 新技術活用による施工者のインセンティブ

新技術活用による施工者のインセンティブ

総合評価方式において評価項目として加える

有用な新技術の活用等を行う提案には加算点の対象

加算点の設定（中国地方整備局）注：他地整により配点は違う
・発注工事毎に加算点を設定 +1点

工事成績において加点する

請負者側から新技術活用を提案した場合のみ加点対象とし、発注者が指定し活用した場合は加点措置を行わない

加点の対象

全体の加点
※主任監督員の加点 × 0.4

最大1.2点

事後評価が実施された技術

- 「有用とされる技術」を活用し、活用効果が「相当程度」あった場合 +1.2点(3点)
- 「有用とされる技術」を活用し、活用効果が「一定程度」あった場合 +0.8点(2点)
- 「有用とされる技術」を活用し、活用効果が「同程度」であった場合 +0.4点(1点)
- 「有用とされる技術」以外の場合は、効果が「相当程度」あった場合 +0.8点(2点)
- 「有用とされる技術」以外の場合は、効果が「一定程度」あった場合 +0.4点(1点)

※()内は主任監督員の点数

成績評定者が、「発注者」及び「受注者」双方の、全ての活用効果調査表を確認したうえで加点

事後評価が実施されていない技術

- 事後評価が実施され「有用とされる技術」を活用した場合と同様に取り扱う

5. その他

NETIS登録番号 豆知識

■NETIS登録番号の見方

【新技術を登録した地整の頭文字をアルファベットで示す】

TH	東北	/	KT	関東
HR	北陸	/	CB	中部
KK	近畿	/	CG	中国
SK	四国	/	QS	九州
HK	北海道	/	TS	テーマ選定技術
OOK	各地整港湾空港部			
ON	内閣府沖縄総合事務局			

NETIS登録番号 : CG-000013-V

【登録年度の西暦年の下2桁を示す】

《例》

1999 (H11) 年度	→	99
2007 (H19) 年度	→	07
2012 (H24) 年度	→	12

【情報種別を以下のアルファベットで示す】

「-V」 : 事後評価済み (H25年度までに評価された技術)
又は 事前審査済み技術 (Valueの頭文字)

「-VR」 : 事後評価済み
(ValueとReの頭文字)
H26年度以降に評価された技術のうち、
継続調査が必要と判断された技術

「-VE」 : 事後評価済み
(ValueとEndの頭文字)
H26年度以降に評価された技術のうち、
継続調査が不要と判断された技術

「-A」 : 事後評価未技術
(Applicationの頭文字)

「-VG」「-AG」 ***イントラ版のみ掲載**
: 平成23年10月以降にNETIS登録技術から削除された技術 《情報提供技術》
(Graduationの頭文字)

【受付地整が登録毎に記す整理番号】

(例の場合は、2000年度に中国地方整備局で13番目に登録された技術)

新技術活用効果調査表の提出における留意点

新技術活用効果調査表の提出における留意点

(例) CG-140001-〇〇

① VEの符号が〇〇に付与された技術

新技術活用効果調査表の提出は、不要。
※新技術活用計画書の提出のみ。

② VRの符号が〇〇に付与された技術

新技術活用効果調査表の提出は、必要。
※新技術活用評価会議において継続して調査が必要と判断された技術。
※VR技術専用の活用効果調査表がありますので注意して下さい。

③ V、Aの符号が〇〇に付与された技術

新技術活用効果調査表の提出は、必要。
※既存のとおり。

『事後評価』「有用とされる技術」の確認方法

★『事後評価の実施』「有用とされる技術」は適宜変わります！

工事成績評定における判断基準日は、以下のとおりです。(工期末ではありません)

◆施工者選定型 → 活用計画書の提出日で判断する(H26より)

NETIS登録番号	●●●●●●●●●●
技術名称	●●●●●●●●●●
事後評価	事後評価済み技術 (2017/04/05)
受賞等	建設技術審査証明※
事前審査・事後評価	試行実証評価 活用効果評価
技術の位置付け (有用な新技術)	推奨技術 準推奨技術 評価促進技術 活用促進技術
旧実施要領における 技術の位置付け	活用促進技術(旧) 設計比較対象技術 少実績優良技術
活用効果調査入力様式	-VE 活用効果調査は不要です。（フィールド提供型、テーマ設定型で活用する場合を除く。）
適用期間等	- V E : 平成29年 4月20日～

※「事後評価未実施技術」の場合

事後評価未実施技術 日付表示無し

「有用とされる技術」の判断は本欄を参照。

「事後評価済み技術」と「事後評価未実施技術」の判断は本欄を参照。
【本欄記載の日付以降は「事後評価済み技術」と扱う】

※本技術における技術の位置付等

	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
技術の位置付等	H29(2017).4.5	H29(2017).4.20			
	事後評価未実施	事後評価実施済	事後評価実施済		